東北大学新聞

発行所
東北大学学友会報道部
川内：川内サークル会館320
〒980-8691
仙台中央郵便局私書箱第68号
印刷所　東北プリント

本号6頁　無料

INDEX

2 震災6ヶ月後報告会開催
3 4 平成22年度卒業生進路内訳
5 鳥人間コンテスト ウインドノーツ優勝
6 麻雀役満全部揃えるぞ！

東北大学新聞ホームページ
http://www.ton-press.jp/
当紙に対するご意見・ご感想は
info@ton-press.jp

みちのく震録伝始動

震災の記録をアーカイブ化

東日本大震災に関する記録を収集、アーカイブ化し、災害に関する横断的な研究を進展させ次なる大災害に備えるみちのく震録伝が始動した。

本学防災科学研究拠点は、文部科学省や日本アイ・ビー・エム株式会社などの産官学の機関と連携して、東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集し、国内外や未来に共有する東日本大震災アーカイブ（＊1）プロジェクト「みちのく震録伝（しんろくでん）」（＊2）を本格的に始動した。本拠点はプロジェクトを通して、災害に関する分野横断的な研究を展開し、東日本大震災の実態解明や復興に関する知見提供、低頻度巨大災害の対策・管理の学問を進展し、今後発生が懸念される東海・東南海・南海地震への対策への活用を図る。

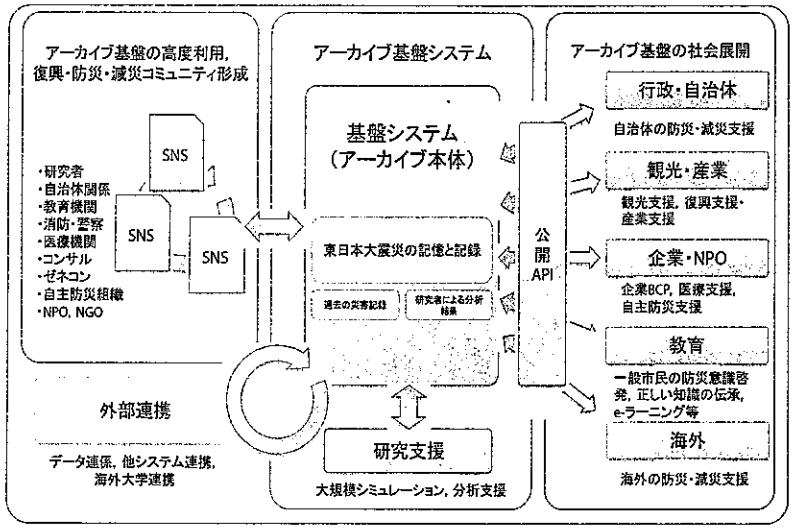
防災科学研究拠点は地域社会の防災・減災に関する学際的な研究を推進するために2007年に21名の学内教員で発足された文理連携チーム。今回の東日本大震災を受けて、さらに多くの教員の参加を得て、現在は40名の教員で構成されている。本拠点には理・工・地・心理・情報・経済・医・歴史学などさまざまな専門の研究者が在籍し、震災関連研究が数多く集まることから、このアーカイブプロジェクトが始動することとなった。

これまでも東日本大震災を受けてさまざまな機関が災害アーカイブを作成している。本プロジェクトはさまざまな機関や組織と連携を取り、情報発信することで災害アーカイブのグローバル・スタンダードを目指している。アーカイブには本拠点研究プロジェクト部門・計画実践部門の幅広い学術研究情報に加え、被災者・行政・民間企業・マスコミなどさまざまな機関からの情報も収集・記録される。

アーカイブシステム本体は、5つの要素が構成している。システムの中心的役割を担うのは「基盤システム」。ホームページを利用して災害の記憶、記録、事例、知見を記録する。このシステムでは、沿岸部の復興地図や3D画像（Google社のストリートビューの3D版）を公開し、5千枚の写真を異なる三通りの方法で見せる復興の時系列を重視したシステムも公開予定。二つ目の要素である「SNS（＊3）」では、SNSを間に介在させる。情報を単にデータとしてのみアーカイブしていくのではなく、コミュニティの形成を促し、人々の主観を含めた情報とするねらい、人々の意見をもとに柔軟にシステムを成長させるねらいがあり、既にJST、Niiと連携が決まっている。「アーカイブ基盤を社会展開するシステム群」は、公開API（＊4）を介して、膨大な情報の中から興味のあるテーマを自動でピックアップできるシステム。「外部連携」では他の災害アーカイブ等と連携し、学術研究以外の情報も取り入れる。また、シミュレーションや分析、解析等の支援を行う「研究支援」も行っていく。

また、本アーカイブは、国内外への情報発信するため二か国語（英語・日本語）での記載が予定されている。

本拠点は3年内のシステム構築を目標とし、10年を目途にデータの記録に取り組む予定である。その間、さまざまな企業の意見をもとに、使用者の意見も取り入れてグレードアップしていく意向だ。



▲東日本大震災アーカイブスの基本概念図

〈脚注〉
＊1 アーカイブ　インターネット上の情報を収集・保存する電子書庫。
＊2 みちのく震録伝「みちのく」…宮城県、福島県、岩手県を中心に東北地方全域を示す。「震」…東日本大震災。「録」…災害の記憶、記録、事例、知見を記録するという意味。「伝承」…災害の伝承、国内外へ伝承するという意味。
＊3 SNS　ソーシャル・ネットワーキング・サービス。mixi、facebookなど。
＊4 API　アプリケーションプログラミングインターフェイス、アプリケーションをプログラムする際に、簡単にプログラムできるよう設定したインターフェースのこと。